

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービスアニマートくれよん		
○保護者評価実施期間	R7年 2月17日		～ R7年 3月17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数)
○従業者評価実施期間	R7年 2月17日		～ R7年 2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 3月18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> 体を動かす活動を主軸に据えて基礎体力の充実を図る。 集団活動でプールや動物園、水族館、博物館など普段行かない場所に外出することが多い。 家庭や学校とは違う環境に身を置き、活動をする事で児童の新たな一面を引き出す。 	<ul style="list-style-type: none"> モニタリングなどの聞き取りにより、児童の課題や、ニーズを把握した上で、活動を企画している。 児童の自主性を重んじ、意見を積極的に取り入れている。 外遊び中、児童が一人ぼっちにならないよう適当なタイミングで職員が介入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 外活動を一律の遊びではなく、タスクを設定し、児童の小さな『できた』を積み重ねていく。 室内活動の拡充を図るため、リズム体操や室内サーキットを取り入れていく。 祝日や長期休暇時の外出で、全員が同じ場所ではなく、年齢や個別のニーズに応じて分かれての活動を行う。
2	<ul style="list-style-type: none"> 他デイと比べて送迎範囲(自宅・学校)が比較的広い。 姉妹店(アニマートばすてる)との連携により、それぞれの長所を学び、支援や活動の質の向上を図れる。 職員全員が正社員であり、社内外での研修を受け、職員の質の向上を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 外遊び、室内活動問わず、すべての職員が児童との活動に入らず、全体を見渡し、安全確認や活動内容の見守りを行う職員を必ず一人設定し、安全確保や児童全体の把握に努めている。 児童に他者との関わりに興味を持ってもらえるよう、自然と関わっていけるような形になる声掛けを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> イベントに限らず、祝日や長期休暇に姉妹店(アニマートばすてる)との交流を増やす。→児童には新しいお友だち、職員には技術交流や情報交換が期待できる。 研修の更なる拡充。新たな資格による新たな活動。
3	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との綿密なコミュニケーションをとることで、児童のニーズ、保護者のニーズを把握。個別支援計画書を作成し日々の活動に取り込む。 モニタリングだけではなく、日々の送迎時に保護者とその日の様子を具体的に伝えて情報共有。小さな変化を見逃さない。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所内では児童の動線を意識した活動スペース、及び設備の配置をしている。 職員の目線だけではなく、保護者や学校の目線を教えてもらうことにより、一方通行な支援にならないよう努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校送迎時に時間を見つけては担任の先生や養護教諭に学校での様子を聞く。また、聞くだけではなく、デイでの様子も伝えて情報を共有していく。 学校での様子、デイでの様子を保護者に伝えて、児童の環境の違いによって生まれる変化を観察していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> 室内での遊び含め活動の種類が、外活動と比べて少ない。 身体障害の児童を受け入れる準備が不十分。 男性職員が女性職員と比較すると少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 外遊びが主軸となり、室内が補助的な位置にあるため。 現状身体障害の児童がおらず、身体障害以外の児童に注力した環境となっている。 募集の段階で男性の応募が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 室内でも体を動かせるようにリズム体操や室内サーキットの導入。タブレットを活用し音遊びの導入。 室内環境に関しては、一部段差にスロープを設置。車いすやバギーを購入し、福祉車両の導入も必要となってくる。 事業所単体での努力では男性求人を増やすことは困難。
2	<ul style="list-style-type: none"> 学習面での支援が外活動に比べて種類が少ない。 父母会を開催していない。 支援ではなく、事業所を運営していくうえでのペーパーレス化、デジタル化が出来ていない。 → 手紙や書類の紛失、『渡した貰ってない問答』、提出し忘れ等 	<ul style="list-style-type: none"> 事業所のモットーが元気に遊んで、遊びの中で学ぶとなっているため、学習よりも体を動かすことを重視しているため。 今の所、保護者からの要望がないため。 今までやってきたやり方、習慣を継続して行っているため。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校や家庭と情報共有し、学習課題を、同じ内容を同じ早さで取り組んでいる。 保護者からのリクエスト待ちではなく、事業所から企画し、働きかけていく。 アプリなどを活用することによって、出来ることから改善していく。
3	<ul style="list-style-type: none"> 今現在、新規利用者が通学している学校によっては受け入れられない。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在利用している児童の送迎先の学校数が多いため。 	<ul style="list-style-type: none"> 既存の児童の卒業を待つか、送迎専門の職員の配置を検討。